

美術科学習指導案

指導学級 : 2年2組 28名
指導場所 : 美術室
指導者 : 教諭 鮫嶋 宏治

1 題材名 「写真による表現 ～友だちを撮ろう～」

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、生徒が相互に人物写真を撮り合い、写真の基本的な技法を学ぶものである。写真を撮る行為は、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話の普及により、より身近で手軽なものとなってきた。絵を描く表現とは違い、瞬間的に映像を記録し、誰でも簡便に行える創造活動でもある。しかし、その簡便さのため、芸術的な技法や制作者の意図が込められていることに気づきにくい。社会に出ると、絵を描くよりも写真を撮ることが多くなるが、写真の中に作者の思いや願いを込めることは少ないと考える。特に人物写真では、モデルの配置やポーズを工夫したり、豊かな表情を引き出すためにコミュニケーションを図ったりする必要がある。この題材では、記録として写真を撮るのではなく、基本的な技法を学び、撮影者（作者）の意図を大切に撮影することで、作品の価値が大きく増すことを学ばせたい。

新学習指導要領においても、映像メディアを活用することは、表現の幅を広げ様々な表現の可能性を引き出すために重要であり、アイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも力を発揮するものと述べられている。写真の表現においては、被写体に対して、どのように興味をもち感動したのか、何を訴えたいのかなどを考え、効果的に表現するために、構図の取り方、広がりや遠近の表し方などを工夫することが大切である。

写真における基本的な技法を学び、班で意見を交換して互いの表現を高めながら、写真という生活に密着した表現を、芸術的な視点を加えて学んでいく題材として設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るい雰囲気得意欲的に学習することができる。じっくりと構想を練り、ひたむきに制作に打ち込む生徒が多いが、ペアやグループで活発に意見交換する場面があまり見られない傾向がある。事前に行った実態調査（9月28日実施、26名対象）の結果は以下の通りである。

質問1	これまでに写真を撮ったことがありますか？	ある…26人 ない…0人
質問2	写真を撮るのは好きですか？	好き…19人 どちらでもない…5人 好きではない…2人
質問3	写真を撮られるのは好きですか？	好き…1人 どちらでもない…5人 好きではない…20人

この結果から、多くの生徒は、写真を撮ることには興味が高いものの、逆に撮られることに苦手意識を持っていることが分かる。最も多かったのが「恥ずかしい」という理由で、今題材では、撮る技術とともに、撮られる側の心構えについても学ばせたい。また、この題材は、生徒間のコミュニケーションを活性化させるために4人一組で班を編制し、撮影者とモデルとを交代しながら、互いの作品について意見を交換させ、個人の作品を完成させるというものである。試し撮りから本撮影への過程で、より効果的な表現方法を練り合う言語活動を通して、コミュニケーション能力の育成にもつながると考える。

また、昨年度のコンピュータを用いたアニメーションの制作では、映像メディア表現にも高い興味や関心を示し、意欲的に取り組んでいた。絵や彫刻などとは違い、何度も撮影し直したり構図の変更ができたりするというデジタルの特性に触れさせるとともに、日常的に行っている写真撮影に隠された効果的な技法を学ばせ、今後の生活の中で生かせる資質を身に付けさせるものとする。

(3) 指導観

教師による指導に加え、プロカメラマンからの感想や助言をもらうことにより、より専門的な知識や技能を学ばせることができる。プロカメラマンは、試し撮りの作品には文章のみでアドバイスを行い、最終発表会の際にはテレビ会議で出演して直接アドバイスを行う。生徒たちの表現意図を踏まえながら、的確な助言や指摘を得ることができる。コンパクトデジタルカメラを用いた基本的な技法のみを習得させる題材であるため、被写体の選び方や構図、背景、表情などの基本的なものに限定し、複雑で難易度の高い技法については省くよう、相互で確認をしておく必要がある。

また、作品には主題となるタイトルを設けさせ、制作者としての狙いや意図を明確にしなが、グループで練りあう活動を大切に、映像メディアで表現する喜びを味わわせたい。

3 題材の学習目標

- 写真を用いた表現に、興味や関心を持つことができる。(意欲・関心・態度)
- グループで他者と意見交換しながら主題を生み出し、豊かに発想したり構想を練ったりすることができる。(発想や構想の能力)
- 自分たちの作品に対する思いや考えを説明したり互いの表現の良さを鑑賞したりして、作者の心情や表現の工夫を味わうことができる。(鑑賞の能力)

4 題材の指導計画

時間	指導の流れ	言語活動 (☆)・ICT活用 (◎)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品 (人物写真, 風景写真, 鉄道写真等) を見て, 作品から受けた思いを発表させる。 ・ 「〇〇な仲間たち」というテーマで, 人物写真を撮ることについて説明し, 学習課題を把握させる。 ・ コンパクトデジタルカメラやコンピュータの基本的な操作方法を説明する。 ・ 班編制を行い, 自分以外の班員を収めた人物集合写真の試し撮りをさせる。 ・ 撮影した画像全てをコンピュータに保存させる。 	◎ タブレットPCを用いて参考作品を提示する。 ☆ 生徒がより深い思考をするために, 「なぜ?」「どのような部分から?」などの対話を基にした発問をする。 ◎ デジタルカメラをテレビに接続し, 撮影しながら技法について説明する。 【評価の観点: 関】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に撮影した作品の中から一点を選びプリントアウトしておく。 ・ 効果的な写真について, プロカメラマンからの視点 (構図, 表情, 光など) に基づいたアドバイスを伝える。 ・ グループで個々の作品を合評し, 主題を基に, 最終的な作品づくりの構想を練り直させる。 ・ ワークシートに試し撮りの作品を貼らせ, 改善点をまとめさせる。 	☆ グループで話し合い, 個々の作品の構想について検討させる。 【評価の観点: 発】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の構想を基に, 最終的な作品を撮影させる。 ・ 撮影した画像をコンピュータに保存させ, グループで話し合いながら, 一人1点の作品を決めさせる。 ・ ワークシートに最終作品を貼り, 改善できた点や制作後の感想等を書かせる。 	◎ 作品制作のためにデジタルカメラを活用させる。 【評価の観点: 関】

4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで1点の作品を話し合わせ、発表の準備をさせる。 ・ 作品発表会を行い、互いの作品を鑑賞させる。 ・ それぞれの作品について、よさや美しさ、視点(構図、表情、光など)について、相互評価をさせる。 ・ テレビ会議システムを使って、プロカメラマンからそれぞれの作品について批評をしてもらう。 ・ 疑問に思ったことや興味を持ったことなどについてカメラマンに質問し、答えてもらう。 ・ 他の生徒の作品を鑑賞する。 ・ 学習を振り返り、自己評価をさせる。 	<p>☆ 視点(構図、表情、光など)を基に、代表作品を選考させ、工夫した点や改善できた点等を発表させる。</p> <p>◎ テレビ会議システムを用いて、プロカメラマンとの交流を行わせる。</p> <p style="text-align: right;">【評価の観点：関、鑑】</p>
-----------	---	---

※ 本題材では、創造的な技法に関する評価は行わない。

5 本時の実際(4/4)

(1) 学習内容 「作品発表会による相互鑑賞」

(2) 学習目標

- 写真による表現やテレビ会議によるカメラマンのアドバイス等に興味を持って、作品発表会に望むことができる。
- グループでの作品選考や発表準備の際に、視点を基に自分の考えを伝えることができる。
- 互いの作品のよさや美しさについて、自分なりの考えを持って気づくことができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 生徒の興味を高め内容理解を促進させるために、タブレットPC等を活用して資料提示を行うICT活用場を設定する。
- 生徒の達成感や達成感を高めるために、テレビ会議システムを活用したプロカメラマンからの助言を受けるICT活用場を設定する。
- 試し撮りからの改良点を具体的に理解させるために、視点を明確にした話し合いや発表などによる言語活動場を設定する。
- 試し撮りと最終作品を比較し、改良できた点を把握しやすくさせるために、ワークシートを活用した言語活動場を設定する。

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
意欲・関心・態度	写真による表現やテレビ会議システムに興味を持って授業に参加している。	写真による表現やカメラマンの批評に、興味を持っている。 (ワークシート、作品による観察)
発想や構想の能力		
表現の技能		
鑑賞の能力	それぞれの作品のよさを見付け、自分なりの考えを持つことができる。	作品のよさについて、感想をまとめたり他者の発表を聞いたりすることができる。 (ワークシート、作品による観察)

(5) 授業の展開

(☆：言語活動，◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	5分	一斉	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試し撮りの作品を提示しながら，具体的な改善点についていくつかの班に発表させる。 ・ ワークシートに記入させる。 	◎ タブレットP Cを活用して資料を提示する。
	作品発表会を開き，互いの作品のよさを見つけよう。				
展開	5分	グループ	3 班で1点の作品を選出し，発表会の準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点（構図，表情，光など）を基に話し合わせる。鑑 ・ 事前に写真をプリントアウトして配布する。 ・ ワークシートを見ながら，発表の確認をする。 	☆ 視点を明確にした話し合いを行わせる。
	3分	一斉	4 プロカメラマンの自己紹介と前時までの取組についての感想を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ会議システムについて，事前に接続テストを行っておく。 ・ 作品発表会の様子を常時中継し見てもらっておく。 	◎ 生徒の興味や内容理解を高めるために，テレビ会議システムを導入する。
	21分	一斉	5 作品発表会を行う。（1班3分間程度）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の3点について項目ごとに発表させる。関 <ul style="list-style-type: none"> ① 作品テーマ（〇〇な仲間たち）の捉え方 ② 視点を基に改良できた点 ③ グループで話し合われた内容 ・ 作品発表を聞きながら，ワークシートに相互評価を行わせる。鑑 	☆ テーマや工夫点を明確にした作品の発表を行わせる。
	6分	一斉	6 プロカメラマンによる作品批評を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な技法には触れず，生徒たちの制作意図に沿ったアドバイスをしてもらうよう，事前に批評の内容を確認しておく。 	◎☆ テレビ会議システムを活用した専門家への質問を行わせる。
	5分	一斉	7 疑問に思ったことや興味を持ったことについて，カメラマンに質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容だけでなく，カメラマンという職業に関して，自由な雰囲気での質問させる。関 ・ 全員でお礼を言わせる。 	
終末	5分	個別	8 学習を振り返り，自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入させる。 	

(6) 検証の方法

- 学習意欲・・・ 生徒の観察，発表，ワークシートへの記入
- ICT活用・・・ 生徒の観察，テレビ会議システムを使ったアドバイスの内容理解
- 言語活用・・・ グループでの意欲的な話し合いの様子，発表会の様子